

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
○ 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	当グループホームの理念は、入居者が望んでいる事を丸ごと受け止めたいという思いから、入居者の気持ちを理念にしました。		
○ 理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	当グループホームの理念は文章化してありますが、別に、わかり易い表現にして掲げてあります。この理念は開設して間もない頃に入居された方が入居してすぐ、「ここは楽しいし、いつでも誰かがいて安心だね、何かあったら助けてくださいね」という言葉を言ってくださったものを韻をふむ様にして言いやすくしたものです。食卓テーブルから目に付くように、居間の両側壁に貼ってあり、入居者が声に出して読んでくれて「本当だね」と言ってくれます。この入居者の気持ちを大切にしたいと思い、日々生活しています。		
○ 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム便りや地域運営推進会議などでもホームの生活をお知らせしたりして、分かって頂くように努力している。		
2. 地域との支えあい			
○ 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所の方々とは散歩や買物などで交流していますし、1階の診療所に来ている顔見知りの方々と、玄関先などで世間話や体調伺いなどを通して理解して頂いていると思っています。駐車場が広くて土曜日曜には車があまりないので、近所の子供さんに自転車の練習をしていたり、ガーデニングを見に近所の方が足を止めて設置しているベンチに腰掛けてくれたりしています。又時々パークゴルフを楽しんでいる方がトイレを借りに来たりもします。		
○ 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会には加入していますし自治会費も納めて広報も回ってきます。散歩中に交わす挨拶や、立ち話などは日常行われていることです。		
○ 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	昨年は、近所の高齢者の方でご家族が留守の間に遊びに来ていただいたり、徘徊があった近所の高齢者が訪問してきた時は一時休んで頂き、御家族のお迎えでお帰りのいただいたりしたことがあります。最近はそのような事はあまりありませんが、ホーム便りなどを通じて、ホームを分かって頂き立ち寄ってもらえるようにお誘いはしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年度の外部評価の結果を職員みんなで考え、改善などが必要と思った事は皆で相談の上改善などに取り組みました。昨年指摘された記録の仕方についても、現在勉強中です。	○	毎日の記録の仕方が不十分である為、記録の仕方について研修や書物で勉強中です。毎日の生活のした・しないは丸印で記入とし、様子を中心に言葉で記録するようにしています。発した言葉・表情・周囲の環境などを記入しながら、精神や体調の状態を推測したり、共に喜んだりしては申し送るようにしています。
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	開催時には毎回、利用状況や活動状況などをお知らせしており、今後の課題や解決すべき問題などを共に考えています。今回は、緊急時の町内会としての対応について貴重な御意見を頂きました。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	幸いにして、ホームと役場とは目の前の距離にあり、散歩の途中や買物の途中等にも挨拶できるような地域の中で生活しています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	利用している入居者は現在いないが、知識としては僅かながらも持っているつもりです。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修に参加したり、書物やマスコミから目や耳に入ってきた事を学んだ職員は、会議や勉強会などで他の職員に積極的に伝えている。地域の高齢者の事で、目に入ったものは行政などに連絡している。又、当事業社内では虐待などというのは、一度もないし、感じたこともない。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約の時にはできるだけ本人にも施設内を見ていただいて入居の意思の確認をするようにしているが、退居や解約の時には体調悪化による事が多いためもあり、本人とというよりも家族とよく相談の上決定している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者対話する機会を管理者は大切にしている。又常にそれぞれの職員は利用者と真っ直ぐに向き合うように耳を傾けており、日頃の会話・様子の中からこうして欲しい、これは嫌だ・・・という事などを感じ取るように努めている。何かを感じた時にはカンファレンスなどで皆で話し合い、解決へと向かうようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、健康面や出来事などを個人便り・施設便りとして発行し、金銭管理についても毎月一回、金銭管理簿のコピーや領収書を送付している。特に急いでお伝えしたいことが起きた時等は、御家族に電話などで報告・相談をさせていただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族の面会時にはできるだけ管理者や担当者が日頃の生活ぶりをお話したり、職員や施設に望む事などを伺ったりしている。又、時々、アンケート等でも御家族の御意見などを伺うようにしている。苦情受付箱などは、申し立てしにくいように、玄関に設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は職員と、できるだけ密に意見・情報交換を行っている。当事業所のモットーは「いい案があったら、先ずやってみよう。もしダメだったら又いい案を考えよう」です。いい案は職員からも管理者からも出ます。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の精神・身体状況が悪化した時には、対応できるような人員確保のための勤務調整や、季節・現在入居者の状態によって等の勤務時間・勤務人数の調整はしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	働きやすい職場にするように管理者は常々気遣っているつもりです。働きやすいという事は離職者が少なく、利用者にとってなじみの関係を継続していける一つの要素と思っています。現在職員は安定しております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は実践リーダー研修に参加させていただいて人材育成の研修を終了し、実際に学んだ事を生かすように、OJT・OFFJTを実行している。 又それぞれの職員の得意・不得意分野の把握に努め、それぞれの力量にあったアドバイスをするように心がけている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	昨年6月以来、遠紋地区グループホーム6箇所と毎月1回の共同勉強会を開催しており、管理者同士も相互に連絡を取り合っており、お互いのサービス向上に役立つ情報の交換や、入居希望者の情報交換などを行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者は成るべくフラットな関係作りに務めているつもりであるし、時々食事会などに行き、お喋りに花を咲かせて明日の鋭気を養ったりしている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者はそれぞれの職員の得意・不得意分野の把握に努め、それぞれの力量にあったアドバイスをするように心がけている。又、個々の生活環境や体調にも気を配り、勤務を構成しているつもりである。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居までにはできるかぎりの対話をし、本人の心をできるだけお聞きするようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居までにはできるかぎりの対話をし、ご家族の困っている事・入居に至るまでの事情をできるだけお聞きするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族と本人と、担当ケアマネ等との連絡をしている。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居相談のあった時から管理者や職員は何度が本人にお会いして顔なじみにはなっておりますが、入居しようとしている方が施設に見えて徐々に馴染めるようにという事はなかなかできにくいと思います。今迄は皆さん入居前に1～2度見学に見えた程度で入居を決めています。それでも入居して頂く本人は自ら「よろしくお願ひ致します、ここに来て良かった」と、入居してまもなく、又入居してずい分経った今も言っています。有難いことです。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	私達はサービスする方であるが、同居人であるという気持ちで毎日接しているつもりです。		
28	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には必ずおじいちゃん、おばあちゃんについての様子をお伝えしているし、御家族からも心配なことや若かった頃の様子を話して頂いたりする等、情報交換を常に行っている。深くならない程度に家族の事情も伝えて頂いており、家族も含めたケアができていると自負しています。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	上記にあるとおり家族からの情報を基にし、おじいちゃん・おばあちゃんが御家族と笑顔で過ごす事ができるように、周囲から支えていっているつもりです。利用いただいている御家族からは、面会に行くのが楽しみになったとか、同居の時には考えられなかった位優しい言葉がお互いにかかけられるとか、感謝の言葉が心から出てくるなどといった声が聞かれます。個人だよりなどでも、関係を良くしていくような記載の仕方に工夫しているつもりです。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	1階が診療所であり、診療所の患者が入居者の知り合いであるということも珍しい事ではありません。玄関は向かい合っており、玄関先に設置してあるベンチに座って話し込んだりしている時には、お茶をお出ししたり、二階に入って頂くようにお誘ひしたりしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	それぞれの部屋を訪問したりしての交流は温かく見守るようにしている。窓際には、向かい合った一人がけ椅子なども設置しており、お喋りの場等として使っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	実際に昨年始めに体調を崩して入院のために退居した方に対しては、入院中お見舞いにいたり、退院勧告を受けた時の退院先の紹介や、相談にものっていました。ようやく無事に、入居先が決まって安心したところです。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の気持ちを伝えられない方は特にその方の心をつかろうと努力を致しているつもりですし、気になっていること・したいこと・好きなことなどには、その時に対応する事に、職員全員の考え・行動が一致しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居してすぐ、センター方式の基本情報シート・生活史シート・家族シート・暮らし方シート・支援マップシート等をお渡しし、家族に記入して頂いたり、これまでのその方を聞き取りしたり、又入居されてからも継続して細かい情報を得るように努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の記録などから、職員全員が利用者全員を把握できるように申し送りなどを行っています。夜勤明けなどで何日か勤務のなかった時の後の勤務は、少し早めに出勤してきて数日間の日誌やケース記録に目を通す姿が見られます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者が決まっていて、担当者が中心になって介護計画を立てているが、評価やアセスメントは、毎日の申し送りの後のミニカンファレンスや毎月の会議の中で職員全員で話し合われることを基本としている。それを基にして担当者が立てた介護計画は介護支援専門員がチェックして最終作成し、担当者が確認・押印の後に御家族が確認、押印・サインして頂き、コピーを手渡す事としている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	今現在は、約3ヵ月毎の評価・見直しで十分対応できているが、急な変化などがあつたときにはその都度見直しするようになっている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録は、ケース記録として、毎日記録し、申し送りされている。個人の介護計画はそれぞれのケース記録ファイルと一緒に綴じており、いつでも目を通せるようになっているし、記録に記入の時には参考にできるように工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族の施設宿泊や本人の外泊・外出など、自由に使っていただけるようにこまめに対応しているし、少人数であるということを生かしてその日その時の状況に応じた楽しみ方(晴天の時にはドライブや外出・外食等)を、利用者の希望に沿うようにしながら支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署の協力をいただいて消火訓練や避難訓練をしていたり、近所に住む方が時々遊びに来てくれたり、散歩中に図書館や駅待合室で休ませてもらったりと、直接・間接的に交流させて頂いている。ホーム便りも役場・診療所・ホテルレストラン・町施設・図書館・駅・理容院・美容院・老健施設・に設置させて頂いてホームを知って頂くようにしている。消防署や警察には個人情報に配慮した上で、氏名や病歴などその機関に必要な事を情報としてお知らせしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	実際には他のサービスを利用したりはしていないが、地域のケアマネジャーや、サービス事業者との交流はあるので、必要となった時には利用したい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	当町の包括支援センターは、今年4月からの運営である。包括支援センターのケアマネは当しらかばの地域運営推進会議委員でもあり、必要となる時には協力をお願いすることにもなるであろうと思う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当しらかばは、診療所の2階部分が居住域であり、1階にある診療所の医師や看護師とは毎日顔を合わせているような生活がである。個人の顔や名前はよく知って頂いている。		
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院のひとつに精神科があり、相談の必要な時や診断・治療にはお世話になっている。		
45	○ 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	職員として、看護師であり保健師でもある職員を確保しているが、更に1階の診療所看護師にもいつもお世話になっている。利用者の事は、看護師さん皆さんがよく知っていてくれるので、安心です。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	今年1月に入院した利用者がおり、見舞いに行った折、認知症状のため見守りができにくいとお話しがあり、担当医師・看護師や家族と相談の上、できるだけ早い退院が実現しました。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	御家族とは、重度化や終末期に向けた取り決めがあり、同意書を交わしている。又、ご家族とは何度も色々な方向から話し合っており、家族としての気持ちは十分伝わってきている。かかりつけ医である診療所医師とは、その都度その時にも十分相談の上、その後の対応をする事になるであろうと思っている。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	管理者はターミナルケアの研修に行ったり、日々書物などで知識を深めるように努力している。そうして会得した知識や情報は、その都度職員に説明・伝達して今後に備えている。現在利用していただいている方々は、最後まで私たちがお世話したいねという気持ちの職員がほとんどである。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	当施設からは病院などに入院したりした際に、センター方式の情報シート一式を御家族の了解の下に渡している。又入居の時にはご家族からの情報や、それまで生活していた施設や病院の情報を詳しくお聞きしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	排泄の声かけ等それぞれの身体や精神に関わる事は、大きな声で話しかけない・職員同士の伝達時にも大きな声は避ける、等の気配りをしているつもりです。本人が行動開始した時を見計らって、したいこと等の思いを汲み取ってお手伝いするようにしています。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員全員が、利用者の持てる力をよく把握して対応しているし、共にゆったりと過ごす時間を作ることで、ちょっとした会話や表情から利用者の要望や思いを感じ取れたりできている。その感じ取ったことを、利用者が自ら再確認できるようにするのも大切な支援ではないかと思っている。例えば、失語の方がボールを見てニッコリするのを見かけた時に、ポンと手元に投げかけ、ポンと返ってくる。その時の笑顔と力強さからボール投げ大好きと感じます。それからは、毎日毎日ボール投げをしては楽しめます。他の方も加わって楽しい運動が展開されます。当しらかばの一面です。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	できるだけ、したいことをできるように支援しているつもり。入浴の時間(入浴する時間や入浴している時間)や、散歩の回数(毎日運動と言い、何回も行く方もいる)・時間(一日の気温の変化などにも注意したりして希望に沿うようにしている)など。又は買物(買いたい時には同行する)・外食(入る店がそれぞれ好き好きがあるのでそれぞれに対応する)など。但し、健康に留意した上での希望に沿った支援です。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節に応じたおしゃれを楽しんでおられるし、カットをしに来てくれる美容師さんではなく、馴染みの美容院や理容院に行っている方もおられます。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	下ごしらえの得意な人、盛り付けをしてくれる方、下膳をしてくれる方、食器拭きの得意な方、それぞれに得意分野で活躍してくれています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在はタバコを吸う方はいませんが、お酒はたまには飲みますし、好みのお菓子や果物は、食事の邪魔にならない程度に皆さんそれぞれが楽しんでいます。		
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	介護度 の方も、オムツは使用しているのですが自室でポータブルトイレで排尿・排便をしています。排泄のサインはほぼ確実につかむことができています。ただ、急なことが多いので、間に合うか間に合わないかです。他の方も同様に、それぞれの方の排泄方法やパターンは確実につかんでおり、なるべく失敗しない支援をしています。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	いつでも入浴できるような体制になっており夜間も入れますが、何度が夜間に入った方も、午後から入っていつものように体操をして、ゆったりとお喋りしながら夕食までの時間をすごすのが良いと言い、現在はほとんどの方が午後、毎日入っています。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居前の生活習慣情報を基にして、本人の生活習慣を生かしながら、生活リズムを整えて穏やかな暮らしができるように気をつけている。例えば、夜間トイレに起きてきた時に必ず夜勤者の顔を見に来る方には、安心して休んでもらえるような笑顔と穏やかさで対応し、眠れないと言い夜中に起きてくる方には、少しお話ししたり暖かい牛乳を勧めたりして、安心して休んでいただくこともある。夜間不眠の方には、不眠回避のために日中の関わりを多くするように気をつけたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日規則正しい生活をしてきた方にはカレンダーめくりをお願いし、毎日決まった時間にめくってくれることへの感謝の気持ちを表したり、調理の仕事に関わってきた方は毎日の食器片付けが日課になっているし、歌が好きでNHKのど自慢に出演した事がある方は毎日いいのどを披露してくれて、皆さんの歌う意欲を引き出してくれたりしています。		
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	全員がお金を所持しているわけではありませんが、本人が希望している方は手元に持っています。金額もそれぞれですが家族と話し合いの上、無くなっても困らない額ということにしています。好きなお菓子を買いに行ったり、バーマをかけに行ったり、お孫さんが来た時におこずかいといってあげたりしています。本人が持っている額や、手渡した金額はその都度家族は伝えてくれ、使ったと思う時には記録しておき、個人便りなどでお伝えしています。お金の流れは把握するようになっていきます。自分なりの金銭出納帳をつけている方も居ります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個人個人の希望により、毎日何回も運動のために散歩に行く方がいたり、玄関前の椅子で外気浴したり、買物に行ったり、玄関前の花壇の花いじりをしたりしています。又、お天気のよいときには散歩がてらの外食も皆さん大好きです。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	例えば、昔自分が住んでいた近くに桜やチューリップのきれいなところがあったと会話の中で知ったときには、見ごろを見計らって花見に行きましたし、昔一度だけ行った事がある花の名所の話を懐かしそうに話しているのを耳にしたときには、もう一度訪れる事ができるように相談計画実行したりしています。御家族が、「昔一緒に行った公園にいきたい」と言われ、数時間の親子デートを楽しんできた方もあります。		
63	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙を自分から書いて出すという事はあまりありませんが、御家族からはよく届く方もあります。手紙が届いた時にはお礼の電話をさせていただいています。又、大雨や大雪で家族の安否や自分の家の安否が気がかりな時には、電話などで連絡しては安心しています。		
64	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	頻繁に来られる町内にお住まいの御家族、毎週面会に見える隣町にお住まいの御家族、遠いので数ヶ月に1度くらいしかこれない御家族、体調を崩しておられるのでなかなか面会に来られない御家族等事情は様々ですが、どなたがいつ顔を見にいらしてくれても、お茶やジュースをお出しして、御自分の部屋でゆっくりと過ごして頂けるようにしているつもりです。面会時間の決まりなどはありません。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はただの一度も行った事はないし、職員全員がするつもりもない。		
66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は遅出職員が帰ったときに施錠し、朝は早出職員の出勤時に開錠している。いつも開いているので、一人で出て行く方への見守り、注意する担当も決まっています。たいいていの時は出て行く後をついて行けるような体勢になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間には自室に鍵をかけて休んでいる方もおり、そのような方の安眠確認がしにくいので耳を澄まして寝息を確認したり、トイレに起きてきた時にはその間にコソリ部屋の温湿度の管理をしたりと、それぞれに工夫をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	裁縫道具を身の回りに置いている方や、果物ナイフを自室に置いている方などがおられます。裁縫道具は主婦はずっと手元においていた物なのであるのが当たり前、習慣として自分でボタンを付け替えようとしていたりしていますが、なかなか上手にできていないように思った時には手助けしたりしています。作業が終了した後の針などの確認は、それとなくするようにしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等 を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの 状態に応じた事故防止に取り組んでい る。	転倒の危険性を感じる方の動きには目配り・手引き歩行、誤嚥誤飲の恐れのある方は同じテーブルで職員と一緒に食事をする、薬は飲む寸前に手渡しして服用を確認するなどの取り組みをしています。何度も外に出て運動したいという方は知らない間に出て行かれるので、「○○さんは今○○で○○をしています」等と、スタッフ間の情報伝達をまめにしています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、 全ての職員が応急手当や初期対応の 訓練を定期的に行っている。	救急訓練は毎年2回、消防署にお願いして実施している。救急に備えてのマニュアルもできている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼 夜を問わず利用者が避難できる方法を 身につけ、日ごろより地域の人々の協 力を得られるよう働きかけている。	利用者は1年に1回は消火・避難訓練をしたり、近所の方にも緊急時の駆けつけをお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合 い 一人ひとりに起こり得るリスクにつ いて家族等に説明し、抑圧感のない暮ら しを大切にした対応策を話し合っている。	外に行くのが大好きな方、無断外出による行方不明の恐れのある方、転倒の心配のある方、糖尿病の管理が利用者の仲間意識の元でなかなかしにくい方(おやつ のやり取り)等、様々な心配がありますが、それぞれの御家族とは面会の時や個人 便りの送付などでよく通じており、入居者が暮らしよい生活を守ることをお互い よく分かり合っているつもりです。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○ 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルサインの記録やケース記録による体調・気分・生活ぶりの変化記録はもちろんですが、看護師による健康管理記録にはスタッフは必ず目を通すようになっています。体調の変化が感じられた時には、いつからかとか、以前にそのような事があったかなどにも注目して、担当者が中心になって対処できるような体制になっています。担当者への援助・助言は、主に管理者が行っているが、同僚同士で相談している姿も最近は見られるようになり、頼もしい職員が育っているように思っています。		
74	○ 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ケース記録には処方薬の説明書がファイルしており、いつでも見られるようになっている。又、用法・副作用等の分からない事があれば管理者は、看護師に尋ねたり書物で調べたりインターネットで調べたりしては、職員に情報提供をしている。	○	現在は毎日の個々の服薬個数等は全職員が完全に把握できていますが、今後は安心のために薬の名前・使用目的や用法・副作用等を資料を見ないでも分かるようにしたいと思っています。
75	○ 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	高齢者にとって排便コントロールは特に大切であるとよく理解しており、個人個人に合った工夫をし、プランにも盛り込んでいる。例えば水分量の把握や毎朝の牛乳、毎朝の掃除・散歩などによる運動量の増加等をしている。どうしても自然排便のない方には個々に応じた下剤を使っている。		
76	○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔清潔は、毎食のほかにも10時のコーヒーの後や3時のお茶の後ももうがいや入れ歯の洗浄を実施している。ご自分でできない方や、きれいにできない方にはお手伝いしている。	○	職員が手伝っている利用者は毎食後や、コーヒー・お茶の後にも清潔の保持ができていると思うが、自分でする方の清潔が保てていないように感じている。声のかけ方や磨き方の指導や援助が、難しい。
77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体重の変化や体調・病状に気配りしながら、摂食・水分摂取量などの調整・記録をしている。自分で水分を摂るからといつも言い、なかなか職員の前で摂って頂けない方には、お名前を記入したペットボトルに水を入れて冷蔵庫保管している事により、飲んだ量の確認ができ、夜間にボトルの洗浄ができるなど良い面もある。又、年に1回は系列老健の管理栄養士による栄養計算・指導を受けている。		
78	○ 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り組みがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルができているし、流行時期でなくても感染予防のために、毎朝晩の手すりやスイッチ・ドアノブの消毒は行っている。又、トイレや玄関・階段は毎朝消毒掃除している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○ 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は毎日買い物に行き、まな板・布巾などは毎日洗濯・消毒をしています。一緒に調理や片づけをしてくれているおばあちゃんたちも、台所に立った時には石鹸を使っての手洗いは、習慣化してきました。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ガーデニングの好きな職員が中心になってお花を植えたりし、その周りに設置しているベンチや椅子に座って日光浴をしている時などは近所の方や診療所の患者さんもお話して行ってくれます。		
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾り物・花等で廊下・階段にアクセントをつけたりしていますが、利用者のアドバイスを聞きながら楽しんでしています。廊下に貼っている写真などは、自分でお気に入りのものを貼っています。		
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのソファの他に、診療所の玄関や道路に面している窓・玄関の踊り場・ベランダに出られる3段の階段も思い思いに過ごせるように使っていただいています。ベランダ前の階段で新聞を読んだり、窓際では仲良く座って噂話に花が咲いたり、家族を見送ったり、暑いといったら階段踊り場で涼んだりしては自分の生活を楽しんでいる様子が、見ていてよく伝わっています。		
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の時にたいいていは持って来て頂いているが、その後になじみの小物や衣類はその都度持って来て頂いています。趣味の編み物や、家族の写真などが部屋にある方などそれぞれです。入居後もご家族と一緒に季節の衣類入れ替え等片をしりしている姿も見られます。		
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝の掃除のときの換気はもちろんですが、温度調節も各部屋に設置している温湿度計でまめに管理している。夏は温度、冬は温度はもちろんの事洗濯物を干して湿度を保つなどの工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	診療所の入院病棟を改築しての建物であるので使いにくい所もあるが、トイレの個数が少ない事などは逆に「少し待ってください」等の助け合いや言葉がけができる・・・と良い方につなげて、つらい階段の上り下りも運動だ・・・等と言ってくれる入居者もおりますので、使いにくい部分は気配り・目配りなどで安全を確保しております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	時報のなる時計は居間に掛けて、他の時計は見えやすいような所にかけたり、カレンダーをあちこちにかけたり、トイレの場所は張り紙をしてお知らせしていたりしています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	すぐ脇には遊歩道があり、遊歩道も含めてわが庭のように使わせていただいているし、玄関周りにはベンチや椅子があり、花壇の花や外の空気を楽しんでいます。玄関前では、診療所の休診日には焼肉などを楽しんでいます。近所の方が散歩中に、気軽に声をかけていってくださったりと、自然や近隣に大変恵まれていると感謝しております。		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☒ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☒ 毎日ある 数日に1回程度ある ☐ たまにある ☐ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☒ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☒ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☒ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☒ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☒ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☒ ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ☐ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☒ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 ☐ たまに ☐ ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☒ 大いに増えている ☐ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☒ ほぼ全ての職員が 職員の2 / 3くらいが 職員の1 / 3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ほぼ全ての利用者が 利用者の2 / 3くらいが 利用者の1 / 3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ほぼ全ての家族等が 家族等の2 / 3くらいが 家族等の1 / 3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）

「**したい時に、したい様に過ごしていただく**」が、私たちが毎日心がけている事です。但し、気候や健康・体調を考慮の上ですので、利用者の方々には、全て満足いただけているとは限らないかもしれませんが……。入浴はほとんどの方が毎日入浴しておられます。入居したての頃はおっくうがっていた方も、徐々に毎日の入浴を楽しみにしていただけるようになりました。浴槽にゆったりとつかって幸せそうです。又、御家族との信頼関係もしっかりとできていると思っております。何でも話していただいたり、時としては相談される事もあったり、本人が幸せであるためには、御家族も幸せでいなければならないと思っております。ここ**しらかば**に入居してから、おじいちゃん・おばあちゃんの笑顔が増えてほっぺたがフックラとし、家族の関係もよくなりましたと言っていただけののが何より嬉しいです。きっと皆が幸せだからなのかなーと、勝手に満足しています。